

# 北九州地区労連ニュース

2026年1月号 No. 231

連絡先 北九州市小倉北区黄金1-4-9-207号

Tel 093-921-0747 Fax093-921-0284

メール k\_roren@kitakyushu-roren.sakura.ne.jp

ホームページ https://kitakyushu-roren.sakura.ne.jp/

解雇・残業代未払い・パワハラ  
あきらめないで電話して下さい  
秘密厳守 労働相談ホットライン  
相談無料

TEL093-921-0747

メール k\_roren@kitakyushu-roren.sakura.ne.jp

## 春闘で安心してくらせる社会に

新年を迎えましたが、大きな不安を抱えながら年を越した感が強くなります。

そして、松の内からトランプ大統領がベネズエラに侵攻し大統領を拉致する、驚愕の出来事が起こりました。世界はことしも、この「キング」に振り回されそうですが、アメリカ国民が自国で抱える「病氣」にどう向き合うのか問われます。

日本社会も、日本人ファーストとか財務省解体とか、安易なフリーズが流行って、それが政治の定番になっています。今の社会は良くない、将来が不安だ、だけど自分では考えない、自分で努力することはしない、誰かにやってもらおう、という意識が、これまた安易なリーダーによって利用されています。

### ◆大儀なき解散は、するな

トランプに続いて日本の総理大臣も、経済対策をすすめると言いながら、衆議院は解散と言い始めています。国民に問うのは、私を支持するかしらないかだけ、で国民は絡めとられようとしています。有権者自身が安易な言葉、解決方法に頼る「病氣」から立ち直らないと、持続

可能な日本にはなりません。

春闘を迎えますが、生活を良くするために、社会を良くするために、自らが努力をしなくてはならない。人に頼って生活を良くするのではなく、労働組合に入ってみるまで考え交渉する。生活に関わる「国の制度を変える」「公正で合理的な国家予算にする」、そういう力を持つのに、時間がかかるけどその過程をきちんと通る。そうした認識を新たに、ことしも北九州地域で働く皆さんが今より良い暮らしを、まちに住み続けられるようにする運動とともに進めていきましょう。

(地区労連議長 安達靖史)

### 【新春宣伝行動】



1月7日、北九州春闘共闘会議は、早朝の戸畑駅と夕方は小倉駅で新春宣伝行動に取り組みました。

この2年の春闘で賃上げは一定進みましたが、中小下請けまで届いていません。

高市政権の「台湾有事が日本の緊急事態」発言が影響したのか国内総生産もマイナスです。そのもとで高市政権の経済対策が始まりました。補正予算の経済対策関係費は、約18兆円と大規模ですが、中身は消費税減税を拒否し、防衛費GDP比2%を前倒しするもので財源を国債という借金でまかなう問題だらけのものです。

大企業の内部留保は、過去最高を更新し続け581兆円にもなっています。春闘で大幅引き上げがあったとされていいますが、2万品目以上の値上げで実質賃金は10カ月連続でマイナスです。大企業の労働分配率、儲けを労働者に還元している率は、2009年度54%あったものが2024年度は37%と過去最低です。

春闘共闘会議は、全国一律最低賃金制度実現そして時給1700円を早急に実現し、2000円まで引き上げをめざしています。

こうした春闘の課題を市民に訴えました。

雨あがり

年末年始、皆様いかがお過ごしでしたか。

我が家は1月2日、実家に私たち子ども3人とその連れ合い、新婚の孫娘夫婦も集って父の90歳のお祝いを行いました。

大分の田舎から高校を卒業後、北九州(当時は八幡)に出てきて、港関係の労働者となった父。当時は下請けいじめもあり、とても過酷な働き方で、「このままじゃ俺たちは殺されるぞ。」と組合を結成すること。しかし何度も情報が洩れ結成大会が阻止され、やっと結成にこぎつけたそうです。

今では大きな会社になっていますが、「組合があったから、ちゃんとした会社になった。」と父は退職の慰労会で社長にも言っていたと。

大酒飲みで血圧も高く、ここまで長生きするとは私も母も思っていまらなかったが、田舎育ちの頑丈な体のおかげか、医者から酒かたばこをやめろと言われ、「酒をやめるなら人間をやめる。」とたばこをやめたのがよかったのか。年明け早々大変な一年になりそうですが、皆様も健康にご留意しお過ごしください。

(真)

## 子どもたちの未来のために

12月13日、「平和とくらしを守る北九州市民の会」がムーブで「北九州市の教育を考える」市民講座を開催しました。

基調報告は、全教北九州の中川さんから、学校現場の現状と改革の方向が語られました。

今、学校現場では、①不登校。いじめ、暴力、自殺件数が過去最高。②先生の病休者数が過去最高。③先生が不足・長時間過密労働、給与の差別化がある。④増える学習内容と業務。⑤学力テストの結果に振り回されている。⑥部活動が地域に移行される。⑦教育予算が削られている、大変な状況にある。

息苦しい学校が不登校につながっている。北九州市の不登校支援は、市内の八幡西2小倉北2と4力所で全市対応でない。学校が息苦しくなる理由の一つに先生の不足がある。先生の欠員が「北九州市は、4月はない」と言いが、新採が辞めたり、先生が病休で休むなど欠員が出る講師の補充ができないことが多い。

先生が不足すると一人の業務が増え、子どもを見る目手も足りなくなる。

市内市長は、Aで教育改革と言ったら、研修でアプリAードリルの利用を教育委員会が言う等、市長の言葉が学校に波

及する。市内市長になり、学校運営費や私立学校補助など教育予算も削減されている。子ども真ん中は、本当なのか疑問だ、と問題提起されました。

## ◆学校ウオッチングで 見えた学校の課題

福建労の吉原さんは学校ウオッチングの取り組みを報告しました。

市内の小中学校の危険箇所を2008年から毎年、各区2校を点検・確認し教育委員会へ要望を出し、懇談も行っている。新婦人や民商・地区労連・年金者組合・共産党市議団・労健連などと連携し、7月に参加団体で打ち合わせて8月に実施してきた。

福建労では、建設のプロとして意見を出す。例えば「新しい学校ゆえのデザインに伴うひび割れで天井などの早急な対策」を求めている。築年数の古い建物が多く天井など特に危険な学校もある。

課題として、①教育委員会は、懇談するが消極的姿勢。②学校予算が少ないと学校からの相談が多い。③子どもの成長にかける予算が相対的に低い。④PTAの参加が現状は一部のみ、などの問題も提起しました。

学校給食の無償化をめざす

会からは、事務局の宮崎さんが、「子どもが小学校に行っているが、市長のシェフの給食で担々麺がでたとき、子どもが辛くて食べられなく残債が多く残った。副菜も辛くパンにシヤムがおいしかったと言っていた。」と市内市長の給食に対する姿勢が給食の改善につながっていない現状を話し始められました。

学校給食無償化の運動で市内市長は、無償化を打ち出したが、年明け小学6年生と中学3年生だけで、保護者間の分断が生まれている。

給食は、食育であり教育。必要な予算は0.5%、優先順位を変えれば可能。国を待たず、市独自で無償化を早急に。市長の「学校給食無償化」表明は、市民との約束。必ず実行を。地元農産物を取り入れ栄養のある給食を。有機農産物農家を支援してください、など求め署名や市への要請に取り組んでいます、と報告されました。



## 消費税減税と生活応援

12月24日、小倉消費税廃止各界連は、小倉駅で署名・宣伝行動を取り組みました。

高市政権は、12月の臨時国会で18兆円を超える補正予算を成立させました。

ガソリンの暫定税率廃止は、大きく動きましたが消費税減税を求める国民の声は、無視されています。自民党が衆・参両院で過半数を割り、消費税減税の絶好のチャンスであったにもかかわらず、国会ではほとんど議論されていません。

1回だけの「お米券」など一時しのぎのバラマキでなく、消費税減税で個人消費を活性化させることが求められています。

消費税廃止連絡会で取り組んだ「消費税5%への引き下げとインボイス廃止を求める国会請願署名」は、32万筆を超え、紹介議員も立憲・国民・共産・れいわ・社民など6会派7人に広がりました。

## ◆自民・維新がインボイス 軽減措置を改悪

自民党・維新の与党は、2026年度の税制改正でインボイス制度実施による消費税負担を軽減する「2割特例」を3割にし、仕入れ税額の「8割控

除」を7割に改悪しようとしています。これは、「インボイス制度を廃止してほしい」というフリーランスや小規模事業者の願いを踏みにじるものです。2割特例が3割になれば納税額が1.5倍となり、8割控除が7割になれば免税事業者へのインボイス登録圧力が強まります。

民間シンクタンクが11月にオンラインで調査した「政府に求める物価高騰対策」で給付金支給や所得税減税、公共料金の負担軽減を抑え、一番だったのが「消費税減税」と発表しています。小倉駅では、こうした情勢を訴え多くの市民が署名に応じていました。





# 「人間らしく働く」ことをめざして

「労働者の健康問題連絡会議」

の第36回定期総会が12月19日健和会複合施設・地域交流センターで開催されました。

北九州地区労連もその一員として、労健連議長や幹事を選出し、運動の前進を目指しています。

高市政権が誕生し、首相自身が「ワークライフバランスを捨てる」と宣言するとともに厚生労働大臣に労働時間規制緩和を指示しました。これまで私たちが積みあげてきた労働者保護の成果や到達点が崩される危険が迫っています。経団連も2026春闘での経営側原案で、「働き方改革」の再構築が報じられ、より安く使い勝手のいい労働者づくりを進める動きを強めようとしています。

総会の議案提案では、日高代表幹事から「活動報告・活動方針」が提案されました。

働く人びとを取り巻く情勢は、1月8日の労働基準関係法研究会報告書で「デロゲーション（法規制の対象外）を労使合意があれば合法の内容」を打ち出しています。現時点では、労使の意見対立を背景に取りまとめの困難さが伺えますが、公益委員が使用者側へ寄せられることも懸念されます。

労働災害では、雇用者に占める60歳以上の割合が19.1%と増え、労災による休業4日以上の死傷者数の約3割が60歳以上です。労災発生率は、30歳代と比較すると男性は2倍、女性は6倍となり、休業期間も長くなっています。

ハラスメントの件数も増え続け、労働施策総合推進法が改正されていますが、ILO条約と比べて限定的でILO条約批准とそれに基づく国内法整備が必要です。

深刻なアスベスト被害の救済と今後の予防対策も重要な課題です。

情勢を捉えた運動と「35周年記念事業を6月13日（土曜）に開催する」方針と役員体制を確認し、充実した定期総会となりました。



## 【参加者の発言】

### ◆市職労・津村さん

残業実態調査を年2回本庁でしている。6時からアンケート用紙を配布し、QRコードでも回答できる。退勤登録しない人が2割いる。アンケートの回答は、人手不足が一番。土日に出勤して振り替えも超勤もできない人が880人もいた。春闘でも問題解決をめざし取り組む。

### ◆全教北九州・中川さん

主務教諭が再来年から新設される。成績主義が強まり職場が分断される。担任手当も付くようになるが、学校はチームで運営しているのに全体のフォロワーに支障が出そう。部活動が2027年9月から平日のみで休日は地域になることになった。先生にとり経験のないスポーツの担当になると負担も多い。子どもを大事にした活動を求めたい。

### ◆福建労・福重さん

アスベスト被害を訴えスタンディングや署名を毎月している。その中でアスベスト被害相談もあり成果もある。労災で労健連ニュースにあるように半月板損傷の認定を勝ち取った。一人親方安全衛生事業でパトロールにも取り組む



### ◆ユニオン北九州・見口さん

ミランマーの女性が38人組合加入し、労働条件切り下げとたたかった。外国人実習生は、暴力などひどい扱いで失踪する原因がずさんな管理団体にある。転籍も制約があり労働者として扱ってない。グエットさんの裁判は上告するので署名に協力をお願いします。

### ◆健和会本部・八木さん

2026年度から労使で労健連事務局を担当するので協力をお願いしたい。民医連では、PFAS問題を取り組んでいる。発ガン物質であり対策強化が必要。

### ◆国労・水流さん

JR九州小倉工場でアスベスト被害17人が認定された。国鉄時代の大井工場でアスベスト被害認定があったが、国鉄時代だけの認定と裁判でたた

かいJRの責任を東京高裁で認めさせ和解を勝ち取った。古い車両の部品をJRが販売しているがアスベスト使用が判明し、販売取りやめになったが事実を隠ぺいしている。追求している。

### ◆Fコープ・長田さん

九州セミナーや「いの健」の活動をしている。Fコープの労働安全衛生で月一回職場会議を実施。熱中症対策で空調バスの回転や8月の連続9日の休暇も実現した。秋季闘争では、空調バスの配布を要求していく

### ◆健和会労組・中村さん

慢性的な人員不足で労働条件改善のために人員要求している。ハラスメント対策で研修を実施したり、夜勤対策など求めてきた。

### ◆九州社医研・田村さん

コークス工場の膀胱がん認定のたたかい。北九州の工場では有害物質が使われていたコークス炉を労災認定させるために「コークスやアルミ工場での膀胱がんへの影響がでる論文」を見つけて追及し認めさせた。アスベストは、ばく露から潜伏期間が長い。調査する中で認めさせたことを伝えていくことが重要。

## 労働法コラム 第130

## 飲酒運転で検挙された場合懲戒解雇となるのか？



黒崎合同法律事務所

田邊 匡彦 弁護士

ることなく拙速、短絡的に行われた」ことが処分取消の理由とされました。

2 飲酒運転が厳罰化されたこともあり、公務員では飲酒運転をすると原則懲戒解雇となってきた中で、判決でありニュースになりましたが、飲酒運転に対する厳しい対応は民間でも広がり、裁判所も懲戒解雇を有効とする傾向にあります。

3 懲戒解雇が認められるためには、就業規則に懲戒規定があること、客観的に合理的な理由があり、社会通念上相当であること（労働契約法16条）が必要で

ること（労働契約法16条）が必要で

飲酒運転を理由とする懲戒解雇が有効か否かを判断するためには、勤務時間内か否か、飲酒の程度（酒気帯び運転か酒酔い運転か）、会社の業種（運送関連業務か否か）、当該従業員の業務内容（運転業務か否か）、物損事故を起こしたか、ニュース報道されたか否か、過去の懲戒歴等を勘案して判断することになります。

4 しかし、営業業務で社用車に乗っていたが業務終了後に社用車で友人宅に行き、飲酒し

た後運転したことを理由に懲戒解雇された事案では、就業時間外、酒気帯び、運送関連業務ではなく、運転業務に従事しておらず、物損事故を起こしておらず、過去に懲戒処分を受けたことがなくても「昨今の飲酒運転に対する社会的非難の高さなどに照らせば」懲戒解雇は有効と判断されています（大阪地判令和7年9月26日判決・静岡鉄工所事件）。

勤務時間外であっても、飲酒運転すれば懲戒解雇される危険性があることを肝に銘じるべきでしょう。

## ★映画と読書のすゝめ

山田 洋次監督

「TOKYOタクシー」

主なキャスト 倍賞千恵子

木村 拓哉

今月は、新年のおすすめですが、年末に観た映画がよかったのでおすすめ紹介です。ご覧になった方もいると思います。

「タクシートの運転手とひとりの乗客：なんのゆかりもないふたりの間に、人生にかかわる深い繋がりが生まれるという、たった一日の奇跡のような物語を、ユーモアを大切にしながら描きたいと思っています。」

(山田洋次)

「生きてきた道と生きていく道を、ふたりで走る。」のパンフレットだけで紹介。フランス映画2022年「パリタクシィ」が原作。倍賞千恵子84歳。ご存じ「寅さんシリーズ」の妹役さくらを演じる名女優、木村拓哉53歳も私観た「武士の一分」「マスカレード」シリーズ等存在感のある役者です。



## 平和をあきらめない 北九州ネット 第11回総会

日時 1月31日(土)14時から

場所 北九州市立生涯学習総合センター 3階ホール(小倉北署横)

## 内容

## 第一部

25年度の経過報告、会計報告

26年度の方針、取り組み

## 第二部

大分から 池田 年宏さんの報告

琉球新報記者 南 彰さんの講演

## 【南彰氏略歴】

1979年 神奈川県生まれ。  
2002年 朝日新聞社に入社  
2008年から東京政治部・大阪社会部で政治取材を担当。  
2018年9月から2年間、新聞労連委員長・日本マスコミ文化情報労組会議(MICC)議長を務める。  
2023年10月、朝日新聞を退職。  
同年11月から琉球新報で記者・編集委員。著書に『絶望からの新聞論』(地平社)他。

※資料代500円

## 戦わない覚悟

## —九州・沖縄の軍事化と抗う—

どうい時代に入り込んでしまったのか見極めて行動を考えるときです

「台湾有事は存立危機事態」「核兵器保有」「継戦能力」。高市政権になって、日本はまるで戦争前夜、臨戦態勢に入ったかのような言葉が飛び交います。南西諸島の軍事力強化だけでなく九州島内でも敵基地攻撃用の長射程ミサイル配備が予定され、民間の港湾、空港を使った軍事訓練は頻繁に行われています。どういう時代に入り込んだのか、見極める必要があります。

南彰記者の講演は、沖縄に報道の拠点置き、急激に進む軍事化をリアルにつかみ、人々の思いを伝えます。今こそそれを合わせて闘う時です。多くの参加をお願いします。

平和をあきらめない北九州ネット

北九州市小倉北区金田2丁目6-4 TEL: 093-571-4688